



保健室だより 9月号

2024年9月 第5号
発行：札幌大谷大学・
札幌大谷大学短期大学部
保健室



HPV (ヒトパピローマウイルス) とは?

ヒトパピローマウイルス (HPV) は世界中どこでも見られるウイルス群で100種類以上の型があり、少なくともそのうち13種類に発癌性があります。子宮頸癌及び前癌所見の70%は16又は18型、中咽頭癌の約50%は16型のHPVを原因とします。

HPV ウイルスに感染すると・・・

子宮頸部(子宮の入口)だけではなく、女性の外陰、膣、男性の陰茎、そして男女共通の中咽頭(咽頭の間部分で、口の上部の柔らかい部分、口の奥の突き当りの壁、舌の付根部分)、肛門癌などを引き起こすことがあります。

通常、HPV感染は、感染成立後、数か月以内に何の治療をしなくとも改善し2年以内で約90%が治癒しますが、少数は感染を持続し、癌へと進行させます。原因としては、性行為、またHPVの付着したものを口にする行為、オーラルセックスが考えられており、**オーラルセックスのパートナーが多いほど中咽頭癌になりやすい**という報告もあります。そして、この**中咽頭癌の患者が近年、急増しており、問題**になっています。子宮頸癌においては、日本では**毎年1~2万人の女性がかかり、そのうち毎年約2700人が亡くなっています**。また、命が助かった人でも、毎年約1200人の女性が子宮を失っています。20代、30代の子宮頸癌発症率は、1990年と比べると2倍以上に増えています。25歳から40歳の出産年齢のピークと、子宮頸癌発症のピークが重なってきています。

HPV ウイルスの予防としては

①HPV ワクチン(日本では子宮頸癌ワクチンとも呼ばれている)接種

現在、接種の機会を逃した女性の方に対し定期接種の対象年齢を超えて接種を行う「**キャッチアップ接種**」が行われています。これは**2022~2024年度までの3年間**行われ、**2025年3月をもって終了**となります。

HPV ワクチンは基本的に**3回接種(6ヶ月必要)**することで**予防効果が見込まれます**。

2024年9月30日までに1回目の接種をすると**公費補助のある2025年3月31日に終了可能**です。

2006年にワクチンが開始されてからの研究では感染予防効果を示す抗体は少なくとも12年維持されているとの研究結果があります。

男性でも、公費で接種できる自治体もあります。(北海道では余市町、新篠津村など) 現在、男性の場合4価(HPV16, 18, 6, 11型に予防効果あり)が国に認可されており、最近では自費で接種する方も増えてきています。

ワクチンの副作用については、50%に注射部の痛み・腫れ・発赤、疲労感、10~50% 痒み、腹痛、筋痛、頭痛等、と軽度な症状が多く、1~10% 蕁麻疹、めまい、1%未満 注射部の知覚異常、知覚鈍麻、全身脱力等の出現があります。重篤な副作用と診断された方は接種1万人当たり3~5人となっています。

*** HPV ワクチンは強制ではないため、厚生労働省のHPや接種医療機関に相談等、ワクチンの安全性、有効性について十分理解の上、接種することが大切です。**

②ワクチンでは予防できない型の癌もあるため20歳を過ぎたら、子宮頸癌検診を必ず受ける。(偶数年齢は公費の補助があり。自己負担1100~1400円程度。通常は約7000円)

③コンドームの装着

肛門や膣、口、皮膚から感染することもあるため、他の性行為感染症に比べて予防の可能性は落ちますが、コンドームを使用することで、ウイルスとの接触を減らすことはできます。

④不特定多数の性的接触を減らす

⑤陰部を清潔に保つ



自分の将来、今のパートナーを守るために、HPV ウイルス感染から身を守ることが大事です!****